

びわ湖ホール芸術監督・沼尻竜典が
近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2018に出演する
音楽家たちにインタビューを行いました

沼尻竜典 × 大植英次(指揮)

沼尻: 音楽祭へのご出演ありがとうございます。

大植: びわ湖ホールは大きなホールにもかかわらず、客席と舞台との一体感があって大好きなので、出演のご依頼をいただき本当に嬉しく思っています。ステージの床がもっと明るい色だったら完璧なんですけど(笑)

沼尻: すみません。大ホールはオペラ劇場なもので…。今年は大植さんの師であるバーンスタイン生誕100年ということもあり、「ウエスト・サイド・ストーリー」より「シンフォニック・ダンス」をお願いしました。

大植: この曲はもう何度演奏したか分からない。日本では1990年にロンドン響と演奏したけど、その直後にバーンスタインが亡くなってしまったんですね。死ぬ前に「これはエイジが持っていてくれ」と、彼が使っていたスコアとパート譜をいただいで、それは大切に銀行の金庫に預けてあります。作品についての思いはいろいろあるので、それは当日の演奏前にマイクを持ってお客様に少しお話ししようと考えています。そこにバーンスタインがいるような演奏をしたいですね。

沼尻: 音楽監督を9年間務められた大阪フィルとご出演いただけるのは大変楽しみです。

大植: メンバーも若くなって技術は向上したけれど、「朝比奈先生の音を絶対に失くさないで」といつも言うんです。どこにも真似が出来ない大阪フィルのサウンドは貴重です。朝比奈時代のブルックナーは世界のどこに出しても通用するものでした。

沼尻: 大植さんのあとの音楽監督は井上道義さん、尾高忠明さん…

大植: 尾高さんは僕が桐朋学園の高校に入学した頃にオーケストラの授業を振っていらしたんですけど、僕はまだホルンを始めて間もなかったのによく怒られて。「始めたばかりだから関係ない!」って言われて怖かった(笑)

沼尻: 大阪フィルのメンバーが中心となって演奏する音楽の祭典、「大阪クラシック」を創設されたのも大植さんですね。

大植: パッファロー響の準指揮者時代、市内のろう学校でオーケストラのメンバーと室内楽を演奏したりしてたんですが、生徒達の反応が僕にとっては鮮烈で「演奏者と聴き手の垣根が低いこういう演奏会が大事なんだ」と強く思いました。その時の体験が「大阪クラシック」に繋がっているんです。大阪だけでなく、自分が関係した町には今でも僕が創設したお祭りをやっている所がいくつもあるんですよ。例えばミネソタ、ハノーファー、それから出身の広島などにも。

沼尻: まさに「お祭り男」ですね。

大植: 「近江の春」のチラシも拝見したけど、僕も聴きたいものがたくさんある素晴らしい内容。一緒に盛り上げて行きましょう!



【Profile】大植英次
大阪フィル桂冠指揮者、ハノーファー北ドイツ放送フィル名誉指揮者。小澤征爾の招きでタングルウッドへ行き、この音楽祭でバーンスタインと出会い、助手を務めた。ほかにミネソタ音楽監督、バルセロナ音楽監督なども務め、2005年、日本人指揮者として初めてバイロイト音楽祭で指揮をした。

「そこに
バーンスタインが
いるような
演奏をしたい」

5月4日(金) 4-L-2

14:15~15:15 [大ホール] -----

【出演】
大阪フィルハーモニー交響楽団 /
大植英次(指揮) / アンティ・シーララ(ピアノ)
【プログラム】
グリーグ: ピアノ協奏曲 イ短調 op.16
バーンスタイン: 「ウエスト・サイド・ストーリー」
より「シンフォニック・ダンス」
(バーンスタイン生誕100年)

5月5日(土) 5-L-2

14:30~15:20 [大ホール] -----

【出演】
大阪フィルハーモニー交響楽団 /
大植英次(指揮)
【プログラム】
ショスタコーヴィチ: 交響曲第5番 二短調
op.47「革命」

両公演ともS席2,000円 / A席1,500円
18歳以下S・Aともに500円引き



大阪フィルハーモニー交響楽団



アンティ・シーララ

沼尻竜典 × 角田祐子(ソプラノ)

沼尻: 現代歌曲は本当に恐くないでしょうか

角田: 私も昔は恐かったです(笑)。でも「現代もって歌う方も聴く方もすごく自由なんだ」と思い始めてから楽しくなりました。曲が出来た時代も私たちに近いですからむしろモーツァルトより感覚的に分かりやすいとも言えますし。

沼尻: ラッヘンマンさんは現代ドイツのバッハと言われていたそうですね

角田: 初めて出会ったのは今回取り上げる「ゴットロスト」の演奏をする事になった時です。私が専属歌手を務めているシュトゥットガルト歌劇場を通して依頼がありました。演技付きの上演で、当時妊婦だったのに逆立ちまでさせられて(笑)。私もあの時は根性がありました。

沼尻: その根性が名誉ある「宮廷歌手」の称号授与にも繋がったのでは

角田: 私のような東洋人歌手に、バーデン・ヴェルテンブルクのような大きな州から称号が授与されるとは信じ難い事でした。

沼尻: 今回の聴きどころは?

角田: 特に予備知識は要らないので、とにかく来ていただいたら楽しいと思いますが、あえて言えば、ノーノが自由を得るための戦いの犠牲を嘆く音楽なのに対して、ラッヘンマンは我々が自由を得た今、支えを失い、道を失い、神を失ったのではないかと問いかける音楽なのです。神がない=ゴット・ロストというわけです。

沼尻: ラッヘンマン作品はピアノパートも大変そうですね

角田: ラッヘンマン自身ピアノがものすごく上手いですからね。素晴らしいテクニックを持つ永末さんなら、いろいろな特殊奏法も難無くこなしてしまわうでしょう。

「現代歌曲、私も昔は恐かったです(笑)」



歌手たちの競演 5-S-7
角田祐子(ソプラノ)
ピアノ: 末永 匡
~現代歌曲は恐くない!~

5月5日(土) 16:00~16:40
【小ホール】
全席1,000円 18歳以下500円

【プログラム】
ノーノ: ソプラノとテノールとオーケストラのための
“生命と愛の歌— 広島橋の上で” (1962) より
ソプラノのアリア Djamilia Boupacha (無伴奏)
ラッヘンマン: Got Lost (2007)

沼尻竜典 × 和谷泰扶(ハーモニカ)

沼尻: ハーモニカを始めたキッカケは?

和谷: 兄の音楽の成績が良くないのはハーモニカが上手く吹けないからと担任に言われ、両親がハーモニカの先生を探して来たのが切っ掛けで、後に私も習うようになりました。

沼尻: ハーモニカの演奏者というのは少ないですよね?

和谷: 大学時代はハーモニカソサエティーに所属していたのですが、3年生の時に全日本ハーモニカ連盟の欧州ツアーに参加することができて、その時に出会った巨匠たちの音色の素晴らしさに打ちのめされ「自分にはこれしかない!」と思ったんです。実家が京都の老舗口ソク店で、いざとなったら家業を手伝えれば良いと思って冒険ができた面もありますけど。

沼尻: 今回のプログラムについてお聞かせください

和谷: テーマが「夢」だと伺ったので「夢か幻か…」ということで「幻想曲=ファンタジー」を集めることにしました。その中でジャグランという作曲家は普段あまりなじみがないですが、この「ルーマニア・ファンタジー」は民族音楽も盛り込まれた楽しい作品です。ハーモニカという楽器の魅力を、最大限に味わっていただくコンサートにしたいと思います。

「ハーモニカの魅力を最大限に味わってください!」



円熟を聴く 4-S-5
和谷泰扶(ハーモニカ)
ピアノ: 荒尾岳晃

5月4日(金) 14:00~14:40
【小ホール】
全席1,000円 18歳以下500円

【プログラム】
ジャグラン: ルーマニア・ファンタジー
シューマン: 幻想小曲集 op.73
サラサーテ(和谷編): カルメン・ファンタジー

沼尻竜典 × 折江忠道(バリトン)

沼尻: 歌手生活41年というのはすごいですね。

折江: いつの間にか41年過ぎてしまった感じがです。でも精神的にはまだ30代ですよ(笑)

沼尻: 藤原歌劇団の総監督でもいらして忙しいでしょう?

折江: 公演を作る仕事に加えて、若手の育成などもありますから暇ではありません。でも若い人たちと過ごす時間は本当に貴重です。一緒に笑って泣いて、彼らから学ぶことも多い。それもあって気持ちだけは若いかな(笑)

沼尻: びわ湖ホールとは若杉芸術監督時代からのご縁そうですね。

折江: プロデュースオペラに二回出演させていただきました。要求されるレベルは高かったけれど、家庭的な雰囲気だったのを覚えています。こんなに良い環境でオペラが出来る所は、なかなか他に無いと思います。

沼尻: 「歌手たちの競演」の大トリをつとめていただくわけですが、楽しそうな作品が並んでいます。

折江: 「ファルスタッフ」のアリアのあとは、オペレッタとミュージカルから選曲しました。「白馬亭にて」は元々ドイツ語のオペレッタですが、イタリア留学時代にイタリア語版に最初に出会ったので、今回もその懐かしさを込めてイタリア語で歌います。「南太平洋」のナンバー「魅惑の宵」も名曲です。作品の内容を分かりやすくするために、ちょっとした小道具も用意しますので、リラックスして楽しんでいただけるコンサートになるでしょう。

「リラックスして楽しんでいただきます!」



歌手たちの競演 5-S-8
折江忠道(バリトン)
~歌手生活41年 折江忠道七変化~
ピアノ: 河原忠之

5月5日(土) 17:00~17:40
【●●ホール】
全席1,000円 18歳以下500円

【プログラム】
ヴェルディ: 「ファルスタッフ」より「名譽たぬ泥棒め!」
カールマン: 「伯爵令嬢マリツァ」より「さあ、シブシー!」
ベナツキ: 「白馬亭にて」より「白馬亭こそ素敵なホテル」
ガッシュウィン: スワンダフル
ロジャース: 魅惑の宵、シャル・ウィ・ダンス?
ハーマン: ハロードー!ー!